

研究の概要

グローバル化に対応した子どもの育成

～外国語教育における言語活動の充実を通して～

1 主題設定の理由

(1) 今日の課題から

国境のあいまいさと国と国との依存関係によって生じる他国や国際社会の動向を無視できない現象が、グローバル化の定義とされている。global は、「地球全体の」「世界的な」という意味をもち、「国際的 (international)」とは区別され、単に国と国との関係性よりも大きな地球全体を規模とした意味がある。

そのグローバル化社会において求められる人間像は、「自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」「自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性」といった「生きる力」を育む学習指導要領の基本理念に通じたものである。とくに、世界や我が国、社会が持続可能な発展を遂げることを目的として、政治・経済・環境等の様々な分野で、共存・共栄の精神が必要とされている。こういった視点に立てば、「生きる力」に加えて OECD が掲げるコンピテンシー（資質・能力）の育成が望まれる 21 世紀の社会的な背景を理解することができる。

教育課程企画特別部会 の「論点整理」（平成 27 年 8 月）によれば、改訂の方向性において、外国語科及び外国語活動における言語活動の充実を図るためのポイントとして、「英語を使って何ができるようになるか」という観点から一貫した教育目標を設定し、それに基づいた実生活にいきわたる力を児童に身につけさせることがあげられている。次期学習指導要領においても、英語を詰め込み教える学習ではなく、これからの時代を生きるために必要な資質・能力を子どもたちが主体的に身につける英語の学習が期待されている。「英語を使って何ができるか」という一節からも、例え外国語教育であっても自ら課題を見だし課題解決の力を育むことに変わりはない。言語活動に取り組む目的は、思考力・判断力・表現力等の育成である、という一貫した考え方があることがわかる。

(2) 児童の実態から

※（略）

2 研究目標

外国語科・外国語活動を中心とした外国語教育において、CAN-DOリストを活用した目的意識・相手意識の明確な言語活動の充実を通して、思考力・判断力・表現力等が育まれることを実践を通して明らかにする。

A 内容：研究分野・領域（手だての投入場面）

外国語科・外国語活動を中心とした外国語教育 において、

B 方法：投入条件・手立て

CAN-DOリストを活用した目的意識・相手意識の明確な言語活動の充実 を通して、

C 目的：めざす姿

思考力・判断力・表現力等 が育まれることを実践を通して明らかにする。

(1) 目的意識・相手意識について

「見方・考え方」の定義及びその特徴

幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）
 平成28年12月21日 中央教育審議会

【定義】各教科等の特質に応じた“どのような視点で物事を捉え，どのような考え方で思考していくのか”という，物事を捉える視点や考え方

【特徴】①各教科等の学習の中で働くだけではなく，大人になって生活していくに当たっても重要な働きをするものである。
 ②学習の対象となる物事を捉え思考することにより，「見方・考え方」は豊かで確かなものになっていく。
 ③教科等ごとの特質があり，各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものとして，教科等の教育と社会をつなぐものである。

外国語教育の見方・考え方

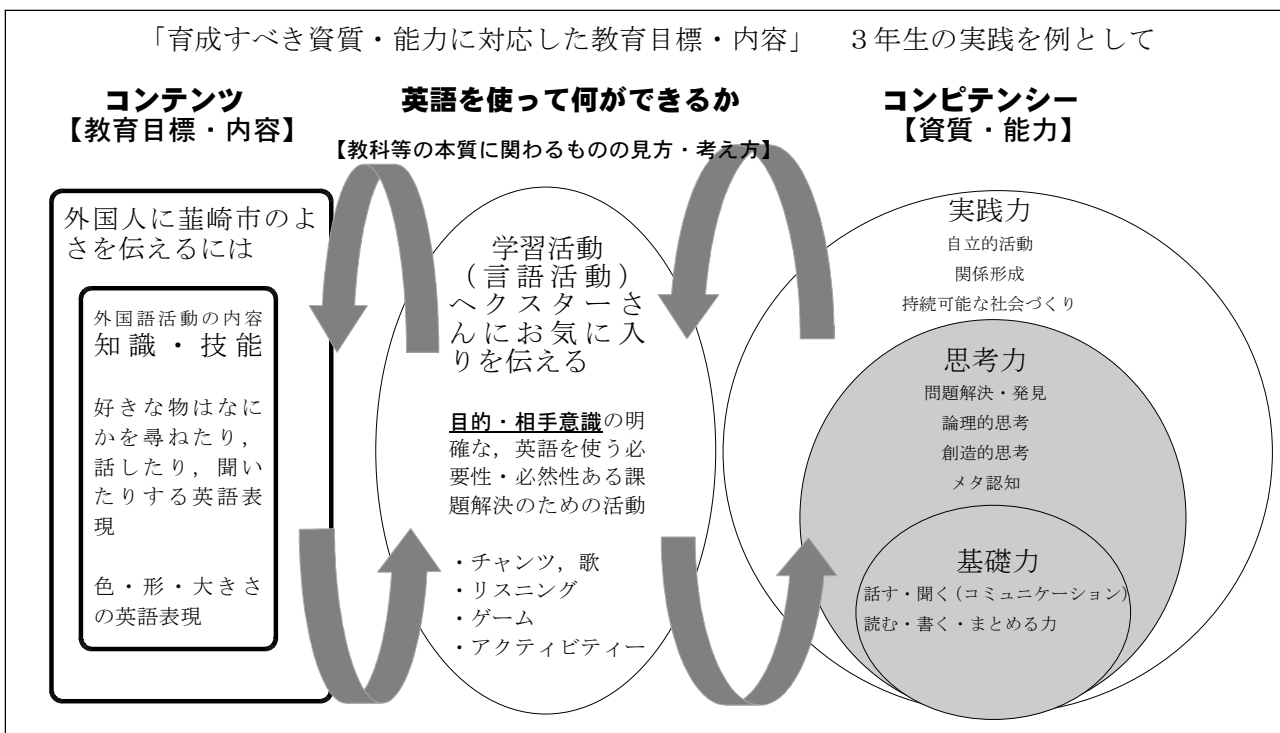
外国語やその背景にある文化を尊重し，社会や他者との関わりの側面から言語を捉え，目的・場面・状況等に応じて，外国語で情報や考えなどを形成・整理・再構築し，それらを活用して，外国語を話したり書いたりして適切に表現し伝え合うために考えること



外国語教育の見方・考え方をはたらかせるポイントが，目的意識・相手意識である。

【昨年度の実践を例として】

- 目的意識 山梨・韮崎市の良いところ（名所・名物等）を伝える。
- 相手意識 【5年生の実践】 担任の義兄（カナダ人）に
 【3年生の実践】 ALTの弟（フィリピン人）に



(2) 「CAN-DOリスト」について

小学校・中学校・高等学校の10年間を通じたCAN-DOの形による学習到達目標 (H270430)
山梨県教育委員会

	到達目標	聞くこと	読むこと	話すこと	書くこと
小学校 6年生	英語を通じて、相手に関する情報及び指導者からの問いかけについて概要を理解し、自分のことを5文程度の簡単な英語で伝えることができる。	○指導者から話されたクラスルームイングリッシュのほか、相手が話す5文程度の英語の内容を理解することができる。 (あいさつ、自分の名前、好きなもの、色、できること、ありがとう、質問等を含む)	○英語のアルファベット(大文字及び小文字)のすべてを*識別することができる。	○自分のことについて、簡単な英語を用いて5文程度で言うことができる。 (あいさつ、自分の名前、好きなもの、色、できること、ありがとう等を含む)	○手本を見ないで、英語のアルファベット(大文字及び小文字)のすべてを正確に書くことができる。
小学校 5年生	英語を通じて、相手に関する情報及び指導者からの問いかけについて概要を理解し、自分のことを3文程度の簡単な英語で伝えることができる。	○指導者から話されたクラスルームイングリッシュのほか、相手が話す3文程度の英語の内容を理解することができる。 (名前、好きなもの、質問など)	○英語のアルファベット(大文字及び小文字)の3分の2程度を*識別することができる。	○自分のことについて、簡単な英語を用いて3文程度で言うことができる。 (あいさつ、自分の名前、ありがとう等を含む)	○手本を見ないで、英語のアルファベット(大文字及び小文字)のうち、半数程度を書くことができる。
小学校 4年生	英語を通じて、相手に関する情報及び指導者からの問いかけについて概要を理解し、自分のことを1文程度で伝えることができる。	○名前や好きなもの等に関して相手から伝えられたり、たずねられたりした2文程度の英語の内容を理解することができる。 (名前、好きなもの、質問など)	○英語のアルファベット26文字(小文字)のうち半数程度を*識別することができる。	○自分のことについて、1文程度で言うことができる。 (名前、好きなもの等)	○英語のアルファベット26文字(小文字)について手本をもとにして正確に書くことができる。
小学校 3年生	英語を通じて、相手に関する情報及び指導者からの問いかけについて概要を理解し、自分のことについて単語レベルで伝えることができる。	○名前や好きなもの等に関して相手から伝えられたり、たずねられたりした1文程度の英語の内容を理解することができる。 (名前、好きなもの、質問など)	○英語のアルファベット26文字(大文字)のうち半数程度を*識別することができる。	○自分のことについて、単語レベルで言うことができる。 (名前、好きなもの等)	○英語のアルファベット26文字(大文字)について手本をもとにして正確に書くことができる。

「各中・高等学校の外国語教育における『CAN-DO リスト』の形での学習到達目標設定のための手引き」
平成25年3月 文部科学省初等中等教育局

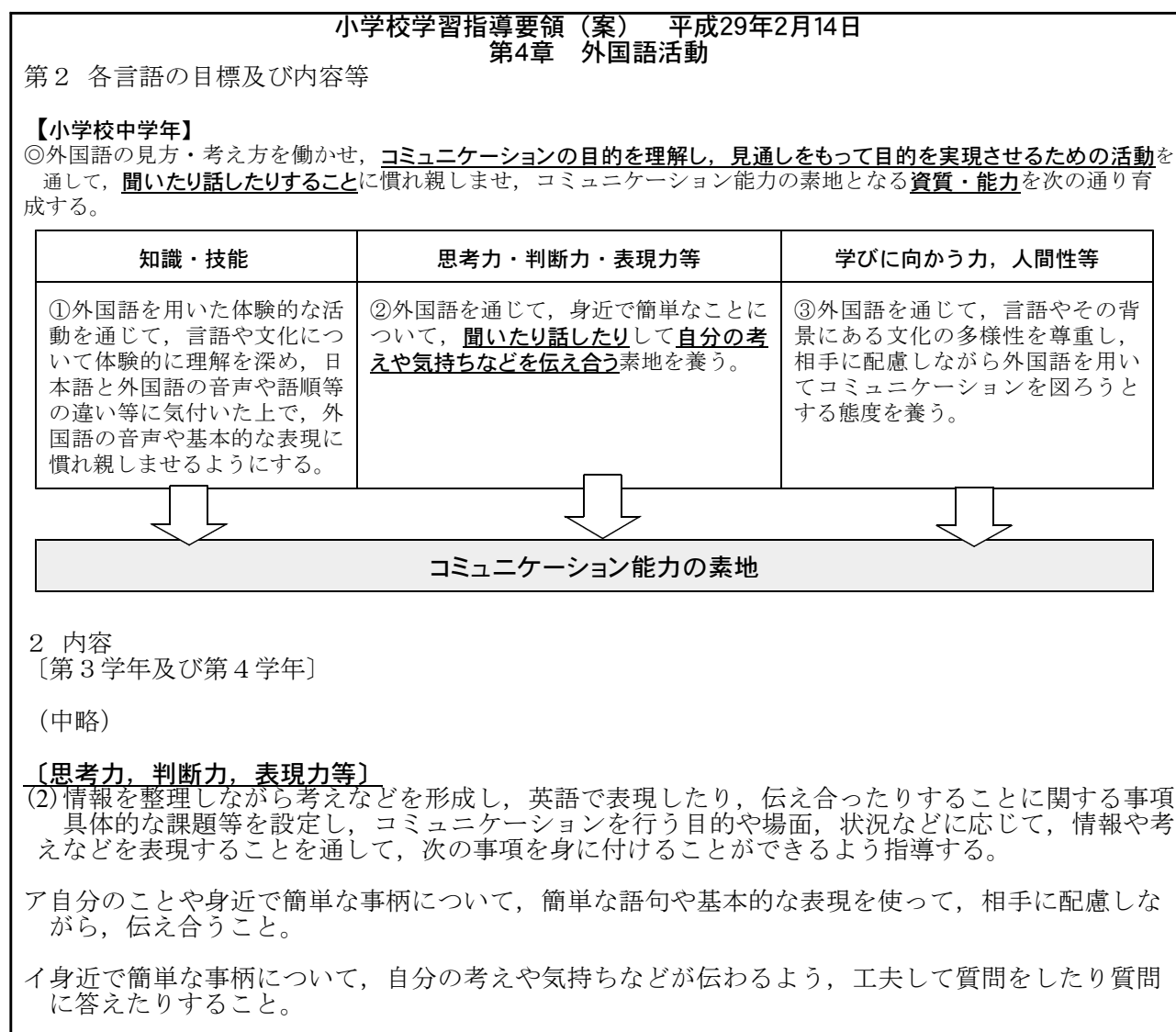
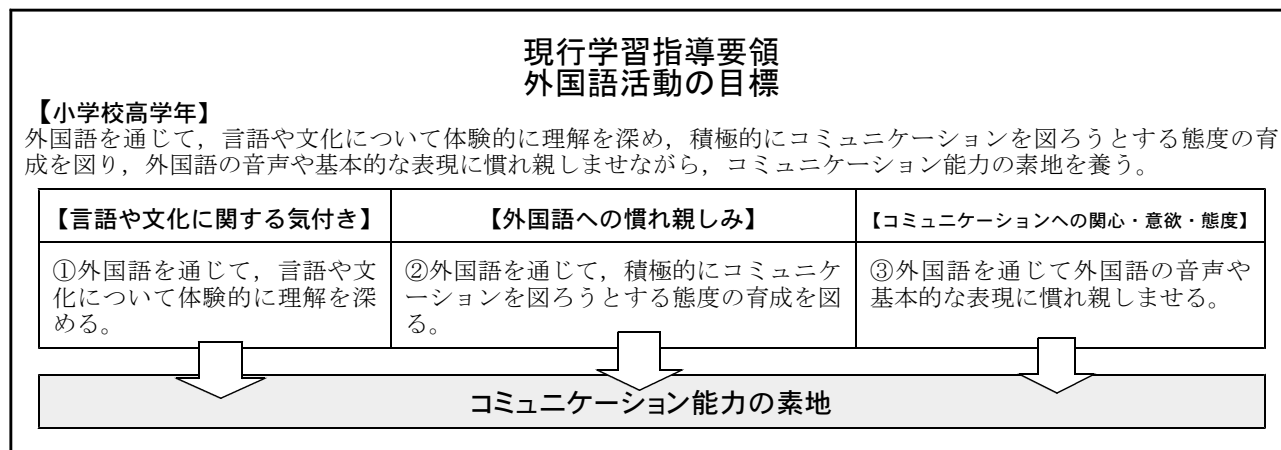
Q3. 学習到達目標とは、全ての生徒が達成すべき目標ですか。あるいは、達成することが望ましいものにとどまる目標ですか。

(答) 本手引きにおける学習到達目標とは、各学校において、全ての生徒に求められる英語力を達成するためのものです。

学習到達目標とは、到達度評価を行う際に学習者の到達度を測定するための基準として設定したものである。ただし、知識・技能の観点で設定した場合には有効に働くが、思考や態度のように到達度が様々な形で表れるような観点では目標設定が困難である。この「手引き」にある「CAN-DO リスト」として示された学習到達目標は、これまで一般的に捉えられていた「達成すべき目標(到達目標)」でも、「達成することが望ましいものにとどまる目標(方向目標)」でもなく、「**達成するためのもの**」である。これは文科省なりの定義であり、「達成するためのもの」という説明は、あくまで「目標」としての特性を強調しているものと捉え、従来の「到達目標」とは区別して考えていきたい。

(3) 外国語教育における「思考力・判断力・表現力等」について

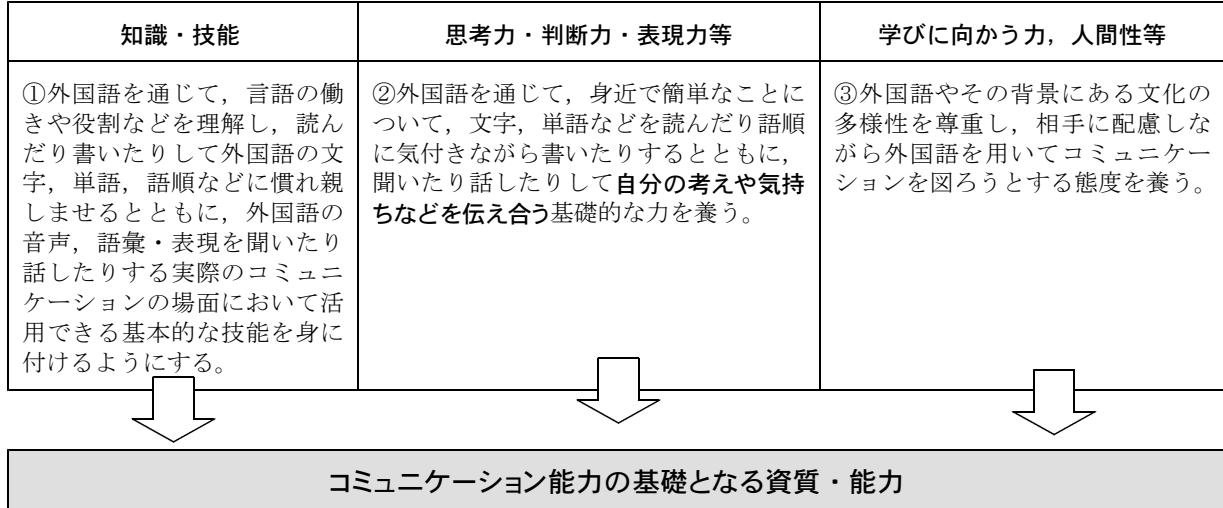
外国語の学習は、語彙や文法等の個別の知識がどれだけ身に付いたかといった点に主眼を置くものではない。児童の学習過程全体を通じて、**知識・技能が実際のコミュニケーションの場面において活用され、思考・判断・表現することを繰り返すこと**を通じて獲得され、学習内容の理解が深まるなど資質・能力が相互に関係し合いながら育成されることが望まれている。また、それらの育成すべき力について、国際基準であるCEFR 61などを参考に、**外国語学習の特性を踏まえて「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力等」を一体的に育成**し、小・中・高等学校で一貫した目標を実現するため、ここに至る段階を示すものとして段階的に実現する指標形式の目標（CAN-DO形式の目標）を設定することになっている。



第2 各言語の目標及び内容等

【小学校高学年】

◎外国語の見方・考え方を働かせ、コミュニケーションの目的を理解し、見通しを持って目的を実現するための言語活動を通して、聞いたり話したりするとともに、読んだり書いたりすることに慣れ親しませ、コミュニケーション能力の基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。



2 内容

〔第5学年及び第6学年〕

(中略)

〔思考力、判断力、表現力等〕

(2)情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項
具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを表現することを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと。

イ身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりすること。